

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

エペソ人への手紙一章二三節

2016(28)年 週 報

3月27日

「イエスの復活」

第4聖日

第3448号

聖
言

キリストは死者の中からよみがえられて、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。ローマ6：9

イースターの祝福
ハローウィンが平和な日本に定着してきまし
た。悪魔に仮装した若者が一晩中町やU s jで練
り歩くのです。今度はいースターを定着させ、ハ
ローウィンやクリスマス以上に盛んにさせよう
と、卵やマヨネーズやうさぎのキラクターを考
えたりしています。世界を見渡すとベルギーで連
続自爆テロがありました。原発テロも企てていた
ことが発覚しました。世界に死の臭いが充満して
います。このような時代だからこその、クリスチャ
ンが声を大にしてたまごからひよこが孵ったこと
以上に、主イエスが私たちの罪の身代わりに十字
架につけられ、死んで葬られ、黄泉に下り、私た
ちの永遠に受ける罪過の苦しみを味わい、私た
ち三日目に死より蘇ってくださったイースターを世
界に宣べ伝えましょう。

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一六年三月十三日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「イエスの裁判」

「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」(1ペテロ二ノ二四)

祈り

受難週を迎えます。イエス様の生涯は常に受難の日々でありました。十字架の日々でした。それも、私たちにわかって十字架を負ってくださいました。それによって、私たちはこうして、神様に礼拝をおささげすることができるようになりました。感謝しても感謝しきれない十字架をもつとふかくあじあわせてください。そして、自分の十字架を負えることができるようにしてください。

もし、私の七〇年の歴史を映し出されたとしたら、まともに見ることはできないでしょう。嫉みと嫉妬。汚れた情欲。傲慢、怒り、恐れと偽善。しかし、隠しおせるものでありません。いや、それがあらわれているのが、十字架であります。あの十字架の上には、私の犯した罪の目録が掲げられています。忘れられていたものも、掲げられています。隠したいと思う物も、赤面するような恥ずかしい事実も掲げられています。いや、それでいいのです。もし、十字架にかかげられなくて、隠していたなら、それを永遠に持ち続けて苦しまなければなりません。だが、自分でもいやでいやでしかたがない、あなたの罪を負ってくれるでしょう。しかも、一度も罪をおかしたことはない神の御子があなたの罪のために十字架を負ってくださいました。驚くべきことです。あなたの罪が十字架につけられたのを見る

とき恥ずかしいでしょう。しかし、御子は裸にされて、どれだけはずかしかつたでしょう。あなたの心は人に自分の罪を知られて苦しんだでしょう。しかし、御子はあなたの罪の為に十字架に釘付けられた痛みと苦しみは想像を絶するものでした。まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの傷みになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために碎かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちがいやされた。(イザヤ五三ノ四、五)。

イザヤは八〇〇年前に十字架とは書いていないが十字架の苦しみと預言した。罪を犯した張本人の私たち以上に十字架の苦しみを知っている。さて、御子の十字架によって罪の赦しを体験したなら、今度は自分の十字架を負って歩まねばならない。それは、御子がついた十字架でない。また首にかけるアクセサリーの十字架でない。毎日の生活の十字架である。御子の十字架を信じる故に受ける迫害、試練、差別を忍ぶ事である。また、自分の人生を犠牲にして、神と人々に使えることである。また、自分の好みでなく、神のみこころに従うことである。これは、自己を捨てなくてはならない事である。悲しい、寂しい、苦しいことである。しかし、そこに、心の平安が与えられ、自分がいかに罪深い者であるかを知らされる。そして、御子の十字架のお苦しみが少しは悟ることができる。

二〇一六年三月二三日午後七時 祈禱会 山本牧師

「獅子の穴に投げ込まれたダニエル③」(ダニエル連第二二回)
「私の神は御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので

す。獅子は私に何の害も加えませんでした。それは私に罪のない事が神の前に認められるからです。王よ。私はあなたにも、何も悪いことをしていません。」(ダニエル六ノ二二)

人生には一度や二度は目の前が真っ白になるようなことがあります。ダニエルも王以外の神を拝んだことで訴えられました。王が死刑執行をしないので、王を脅してダニエルの死刑執行を迫りました。王は自らの軽率なことで、優秀な側近ダニエルを失うことを悲しみ、断食をしました。早朝穴に行つてダニエルの名を呼ぶとダニエルは王に向かって元気な声で応答した。人間は外側の出来事に左右され易く、右往左往する。ダニエルのように、たとえライオンの穴に投げ込まれることがあつても、主が共にいてくださるので、恐れてはならない。守屋姉もライオンである死を恐れず、地上の生涯を終え、天国に凱旋した。また、ライオンは悪魔の方である。ほえたける獅子のごとくである。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」(一ペテロ五ノ八)

まきば

守屋多美子姉

三月二〇日(日) 午後四時一〇分老衰のため召されました。

前夜式 三月二一日(月) 午後六時

告別式 三月二二日(火) 午前十一時半

イースター克己献金実施中

お祈りと御協力をおねがいます。

牧師・役員一同

四月の行事計画表

- 一日(金) 月に一度の祈祷会 午後一時
- 三日(日) 年度初め役員会
- 五日(火) 納骨堂掃除 午前一〇時
- 一七日(日) 礼拝後教会総会 欠席の場合は委任状提出
- 二四日(日) オープン礼拝「迷える羊を探す羊飼ひ」
- 二五日(月) 説教塾 神港教会 午前十一時
- 二九日(金) 大日丘集会 午後五時

四月召天会員

- 一日 片山国江姉 二四周年
- 三日 西川チサエ姉 五二周年
- 西川 明兄
- 五日 大根田宣子姉 四七周年
- 六日 後藤宇伎遠兄 七八周年
- 八日 魚住知恵姉 三六周年
- 十六日 守屋和子姉 九二周年
- 二十日 神田盛左衛門兄 七一周年
- 二三日 早瀬薫兄 二九周年
- 二三日 佐野キノ姉 二一周年
- 二四日 桑田健一兄 七一周年
- 二五日 高橋かじ姉 六三周年
- 二八日 庄司信幸兄 五九周年
- 二八日 西原桂香姉 五二周年
- 二八日 小高トヨ子姉 二六周年
- 二九日 坂原宣之兄 二九周年
- 三十日 三永喜一郎兄 六五周年

藤沢正恣

召天者遺族は納骨堂周辺の掃除をお願いします